

1. 幼稚園の教育目標

子どもたちは、無限の未知なる可能性を秘めており、その可能性は幼児期の過ごし方で大きく左右される。本園は「生きる力」の基礎を育むことを大目標としている。生きる力の根源はやる気である。四季折々の子どもたちの体験活動を重視し、感動体験から湧き出るやる気（意欲）を発露させる保育を進める。

2. 令和6年度の重点

- ・ いきいきと活動し心豊かな子どもを育てる。
- ★ 考える子ども…………… 工夫し創り出して遊ぶ
- ★ 元気な子ども…………… 身体を存分に使って遊ぶ
- ★ 感じる子ども…………… 自然に親しんで遊ぶ
- ★ 仲よくする子ども…………… 思いやりをもってきまりを守って遊ぶ

3 評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	結 果	理 由
(1) 園の教育理念 教育方針	4. 5	・ 社会や地域の要請、園・子どもの実態に応じるとともに、本園の目指す教育理念・教育方針を再確認しながら、教育・保育に努めた。 ・ 「全教職員で全園児を育てる」ため、全教職員で共通理解する機会を持つことに努めた。 ・ 感染予防に努めながらほぼコロナ渦以前の活動に戻し、十分な体験活動を実施できた。
(2) 教育課程・指導	5	・ 教育方針に則り達成感や満足感が得られるよう保育の充実に努めた。 ・ 子どもの実態に応じた保育が展開できるように、指導の工夫を進めた。また、それぞれの活動後の評価を重視し、次の活動に生かせるように園児への声掛けをさらに工夫した。 ・ 活動中や活動後の振り返りを大切にすることに努め、子ども達に小さな変化や伸びに気付かせるよう声かけをし、自己肯定感の醸成を図った。 ・ 四季折々の行事を実施することができた。 ・ 絵画指導・英語指導・体育指導・音楽指導では、各講師と連携した保育を実施できた。
(3) 保健管理	4. 5	・ 園医による定期的な検診と月々の発育測定の実施及び日常の健康観察や疾病予防のための取り組み等、園児の健康管理に十分配慮することに努めた。 ・ 子どもたちの健康の維持増進のため、運動遊びやマラソン・縄跳びなど計画的に取り組み、運動への意識を高めることができた。 ・ 年間を通して手洗い・うがい・アルコール消毒の徹底を図った。 ・ 保育室及びバス乗車時の換気を行い、感染予防に努めた。 ・ 園医・保護者と連携を取り、園児の健康管理に力を注いだ。 ・ アレルギーのある園児の対応を全職員で共有し対応することができた。
(4) 安全管理	4. 5	・ 避難訓練及び防犯訓練を定期的の実施し、子どもの安全に対する意識の高揚を図った。また、教職員一人一人が子どもを守る意識と行動を高めることに努めた。 ・ バス閉じ込め防止のため、送迎用置き去り防止装置の場所を子どもと確認した。

		・施設・設備の定期的な安全点検と保育室等の日常の安全点検の徹底に努めた。 ・門扉の二重ロック・開閉時のベルなど、継続して防犯・安全管理を徹底している。 ・外部侵入者対策を教職員で共有した。 ・登降園管理システムで園児一人一人の登降園の時刻等の把握を徹底して行った。 ・転落の危険がある遊具では、怪我防止として衝撃吸収マットを設置した。
(5) 特別支援教育	5	・箕面市主催の研修会に参加し、日々の指導に活かすことができた。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成し、個に応じた指導ができるよう努めた。 ・小学校への滑らかな進級となるよう、進学する小学校や家庭との連携を図りながら要配慮児童のスムーズな進学に向け取り組んだ。 ・配慮を要する個々の子どもの理解が進むよう、箕面市発達相談や保護者との連携を密にし、的確な援助・支援となるよう努めた。 ・全教職員で必要な情報共有を行い、連携・協力を図ることに努めた。
(6) 組織運営	5	・全教職員で全園児を育てるという意識が浸透し、一人一人の子どもに応じた指導、支援、対応ができるようになってきている。 ・教職員間の報告・連絡・相談を徹底し、安全で円滑な幼稚園運営に努めた。 ・より良い人材育成の視点から、適切な指導・人材配置を行い、チームとしての力を生かし組織全体の総合力を高めることができた。
(7) 研修	4.5	・様々な研修への参加を促し、自分のスタイルに合わせて受講できるオンライン講習を進んで受けることができた。 ・新任教員に対しては、府教育センター主催の初任者研修を受講した。 ・子ども理解・指導技術・指導法などの研修を定期的実施し、子どもへの声掛けを含めた対応の仕方や保護者対応について相互に理解を深めることができた。 ・外部講師による実施研修を実施し、指導法や表現技術を学び、指導に活かすことができた。
(8) 情報提供	4.5	・園児管理アプリにより登降園の把握や出欠の確認、メールによる連絡を行うことが職員・保護者共に定着してきた。 ・毎月の園だよりや毎週のミニだよりの発行で園の予定や保育の様子について伝え、大切にしていきたいことや園の方針を伝えるよう努めた。
(9) PTA との連携	5	・PTA 主催の夕涼み会では、今年度より飲食物販を再開し、実施することができた。 ・食中毒や感染予防に細心の注意を払いながら、もちつき大会を開催することができた。
(10) 子育て支援	4	・未就園児を対象とした「あそびにおいで」を予定したが、参加者が集まらず、対象年齢の枠を緩和して参加者を募り、兄弟がいる家庭も参加しやすいよう工夫して実施した。 ・満2歳児を対象とした、週2回の特別保育「ぴよんぴよんらんど」は年間計画のもとに実施できた。

(11) 預かり保育	4.5	・保護者の要望を可能な限り受け入れ、毎日7時30分～18時30分まで実施した。 ・預かり保育を希望する家庭が多く、人数が増えたため、年齢により保育室を分けるなど工夫をし、安全な保育に努めた。 ・園児管理アプリを利用し、正確な時刻による料金管理が実施できている。 ・預かり保育を異年齢児の交流の場として位置づけて意識し取り組んだ。
(12) 教育環境整備	4.5	・子どもの安全と飛び出し防止の為、ノブやカギを子どもが届かないようにしたり、開閉時音が鳴るようにしている。開閉時について保護者への注意喚起を継続的行ったり、監視カメラによる見守りモニターの確認を全職員で実施している。インターフォンのモニターが大きくなりより見やすいように一新した。 ・登降園管理システムにより、園児の出欠状況を全職員で共有し、登降園の把握を確実にできるように努めている。 ・送迎用バス置き去り防止装置を取り付けている。 ・園庭の遊具の点検・整備を行い、よりよい環境を提供するよう努めた。 ・園庭の安全マップを作り、怪我が多い場所に保育者を配置し、常に目を配るよう努めた。 ・花壇・玄関前の植物栽培に力を注ぎ、四季折々の草花が鑑賞できるように努めた。 ・子どもたちは、菜園で育てた四季に合った野菜を育て収穫までを楽しむことができた。

☆自己評価 (5:十分に達成 4:達成 3:おおむね達成 2:要努力 1:要一層努力)

4. 総合的な評価結果

- ・コロナ禍で縮小していた行事を見直しながらも、徐々に以前の様に実施できるよう努めた。
- ・全教職員で全園児を育てるという共通意識のもと子どもに対応することに努め、園児たちが自分の思いや考えを発表する機会を様々な場面で設定するなど工夫し、一人一人の思いを引き出すことに努めることができた。
- ・本園89年の伝統の中、四季折々の行事や子どもの体験活動を重視しながら、新しい方向性を見据えた保育の展開に取り組むことができた。
- ・園児管理システムを導入し、保育の活性化、充実化を図ったことで園と家庭との連絡を円滑にすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
子育て支援	・未就園児対象の「あそびにおいで」について日程や時間を検討し、参加してもらいやすい様工夫していきたい。
安全管理	・熱性けいれんやアナフィラキシー等、緊急時の園児への対応を全教職員で共通認識し、適切に対応できるよう安全管理に努める。
教育課程・指導	・教員の資質向上を目指して、積極的に研修に参加できるよう今後も努める。一人一人の子どもがより主体的に動ける保育の指導法の研究と環境整備の充実を努め、子どもが自分の思いを表出できるよう導き、自己肯定感の育成を図る保育に向けて取り組む。特に支援が必要な園児への適切な指導の在り方を職員間で今後も共有していく。 ・教育課程及び指導計画を定期的に見直し、園児の実態に応じた保育を展開していくことに努める。特に、異年齢児との交流活動をより活性化していく必要がある。

	・ 幼小連携及び地域連携を大切にした保育のあり方を探りながら実践していく。 ・ 複数教員での指導、多方面から眺めた保育を深め、保育の充実に努める。
研修	・ 大私幼や府教育センターの研修等を活用し、研修の機会を確保し、課題への取り組みや教諭のスキルアップへと繋げたい。
情報提供	・ HP やらくらくアプリを活用し、保護者や地域へ、幼稚園に関する様々な情報の提供・幼稚園公開の実施・園だよりやPTA情報などについて発信していく。
預かり保育	・ 預かり保育の中身を吟味し、異年齢児の交流の場として充実を図る。

6. 学校関係者評価委員会の評価

全 体 の ま と め	
・ 教育目標実現に向け数多くの体験活動を実施し、保育の充実に努められたことは評価できます。 ・ 全教職員で全園児を育てていくという理念を大切に、今年度も子ども一人一人への丁寧な対応に努めたことがわかります。特に支援の必要な子どもへの配慮を園全体で共有されていると感じられます。今後も伝統を大切にしながらも、一人一人がのびのびと安心して過ごせる環境を整えていかれることを継続してください。 ・ 衝撃吸収マットの設置やバス置き去り訓練の実施、アレルギー対応等、安全管理に努められている「ことがわかります。 ・ 園児管理アプリにより、保護者との相互の連絡が円滑に行えていると思われます。	